

龍谷大学 履修要項
2025年度 心理学部

🔄 最終更新日：2025年3月10日

2025年度入学生

心理学部

2025年度入学生 心理学部 メニュー

「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

>

- 心理学部の教育理念・目的 >
- 心理学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士 (心理学)] >
- 心理学部の教育課程編成・実施の方針 >

心理学部の教育目的および履修方法

>

- 卒業要件単位および学士号 >

[卒業の要件 >](#) [卒業研究 >](#) [卒業の時期 >](#) [卒業要件表 >](#)

- グレイドナンバー制 >
- 科目ナンバリング >
- 心理学部における学修 >

[低年次における専門基礎科目 >](#) [高年次における専門発展科目 >](#) [4年間の学修プログラム >](#)

心理学部専攻科目の教育目的および履修方法

>

- 【1】学修課程上の区分 >
- 【2】履修方法 >
- 【3】開設科目一覧 >

[\(1\) 心理学部専攻科目一覧<配当 Semester 順> >](#) [\(2\) 学舎別 開講科目一覧 >](#) [\(3\) プログラム科目一覧 >](#)

- 【4】キャリア教育 >

[\(1\) キャリア啓発科目 >](#) [\(2\) キャリア形成科目 >](#)

- 【5】卒業研究 >

[\(1\) 「心理学演習」 >](#) [\(2\) 「卒業研究」について >](#)

- 【6】国家資格「公認心理師」 >

[\(1\) 「公認心理師」を取得するには >](#) [\(2\) 龍谷大学における公認心理師受験資格取得のための科目 >](#)

[\(3\) 「心理実習A・B」について >](#)

- 【7】科目ナンバリング >

ループリック

>

- ルーブリック >

(1) 「ルーブリック」とは >

(2) 心理学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック >

(3) 卒業研究ルーブリック >

「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

心理学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、現代社会が抱える諸課題に対し、心理学の教育と研究を通じて得られる対人支援や良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、主体的かつ実践的に対応できる人間を育成することを目的とする。

心理学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士 (心理学)]

心理学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生に保証する基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方針を次に掲げる。

心理学部の学生に保証する基本的な資質・能力

○教養教育科目により保証する資質・能力

●専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができる。 ●他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけている。 ●社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができる。 ●心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができる。 ●よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生涯就業力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

- ① 学部で4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- ② 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位を必要とする。
- ③ 卒業年次には、「卒業研究」を提出しなければならない。卒業研究提出後に卒業研究発表会を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

心理学部の教育課程編成・実施の方針

心理学部では、卒業時に「教育理念・目的」や、「卒業認定・学位授与の方針」に明示した「学生に保証する基本的な資質・能力」を確実に身につけられるように確かなカリキュラムを編成している。具体的には以下の方針に基づく。

心理学部の教育内容

○教養教育科目により保証する資質・能力

●専攻科目により保証する資質・能力

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<p>○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。</p>
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。</p> <p>●他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけ、人とのつながりを形成するために、「初年次科目（フレッシュゼミ）」及び「導入科目（基礎演習）」を開講する。</p> <p>●行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができるようにするために、「導入科目（基礎演習）」、「基礎講義A」及び「基礎講義B」を開講する。</p>
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）の発展・向上</p>	<p>○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語及び英語以外の複数の外国語科目）を開講する。</p> <p>○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系等）を開講する。</p> <p>●社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができるようにするために、「導入科目（基礎演習）」、「基礎講義B」及び「基礎講義C」を開講する。</p> <p>●社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけるために、「プログラム科目」、「演習」及び「卒業研究」を開講する。</p>
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上</p>	<p>●他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができるようにするために、4年間を通じて演習科目（「導入科目（基礎演習）」及び「演習」）を開講する。</p> <p>●心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができるようにするために、「プログラム科目」及び「演習」を開講する。</p> <p>●よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生涯就業力を身につけるために、「基礎講義A」及び「基礎講義B」</p>

にキャリア啓発にかかる科目を、「プログラム科目」にキャリア形成にかかる科目をそれぞれ開講する。

教育方法

- 学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（担当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるような科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
- 全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。〈学修成果の評価〉

学修成果の評価

- 学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- 卒業研究の評価は、提出された成果物に対する評価と卒業研究発表会における評価によって行う。

心理学部の教育目的および履修方法

卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要です。その一環として、124単位以上を修得しなければなりません。

卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。また、卒業判定が行われる学期に在学していなければなりません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています（詳細は「教育課程」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

卒業研究

提出方法・提出時期等については別途、ポータルサイトでお知らせします。

卒業の時期

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

(2) 9月卒業の取り扱い

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者について、第1学期（前期）終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

（注）9月卒業を希望する者は、所定の期間に申し出て、所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。**（本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください。）**「9月卒業」を参照。）

卒業要件表

心理学部の卒業要件は、下表のとおりです。

心理学部（124単位以上）				
教養教育科目	仏教の思想A	4単位		
	仏教の思想B			
	言語科目	12単位		
	教養科目	人文科学系科目	2単位	
		社会科学系科目	2単位	
自然科学系科目		2単位		
選択科目		14単位以上		

心理学部専攻科目	専門基礎科目	演習科目	8単位	
		講義科目	基礎講義A	22単位
			基礎講義B	24単位 ※
	基礎講義C		4単位	
	専門発展科目	演習・卒業研究		12単位
		プログラム科目		24単位 ※
共通選択科目				
学部フリーゾーン			10単位	
オールフリーゾーン			8単位	

※ 「専攻科目 専門基礎科目：基礎講義B」、「専攻科目 専門発展科目：プログラム科目」、「専攻科目 共通選択科目」から24単位選択。

グレイドナンバー制

心理学部で開設される授業科目には、グレイドナンバーが付されています。これは、科目のレベルを簡明に表示したものです。学修計画の設計にあたって、これを参考にしてください。

基礎 → 応用

グレイド	100	200	300	400	500
------	-----	-----	-----	-----	-----

科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。詳細は、別途記載の開設科目一覧を確認してください。

心理学部における学修

心理学部では、さまざまな科目が一定のカリキュラム（教育課程）に沿って展開されていますが、これらの科目は、大きく「教養教育科目」と「専攻科目」の2つに分けることができます。

教養教育科目は、「仏教の思想」科目、「言語科目」、「教養科目」で構成されています。

一方、「専攻科目」とは、心理学部の教育理念・目的に基づき、科目を開講しています。

低年次における専門基礎科目

「専門基礎科目」では、卒業後のキャリアも視野に入れて、初年次から「3つの柱（科目群）」を設定し、心理学の知見に基づいた社会実践をする上で必要となる基礎的な専門教育を行います。

心理学基礎科目	心理学の基礎となる考え方そのものを学ぶとともに、それらがどのように応用心理学と繋がるのかを理解することを目的として開講する科目
データサイエンス科目	これからの社会的介入において求められる「根拠に基づく対応」ができるように、心理的特性そのものをデータとして統計的に処理・分析し、心のありようを科学的に捉えることを目的として開講する科目

キャリア啓発科目

実社会における心理学の応用の実際を学び、専門資格取得の有無にかかわらず、卒業後のキャリアを意識した学修目標の設定を低年次の段階から促すことを目的として開講する科目

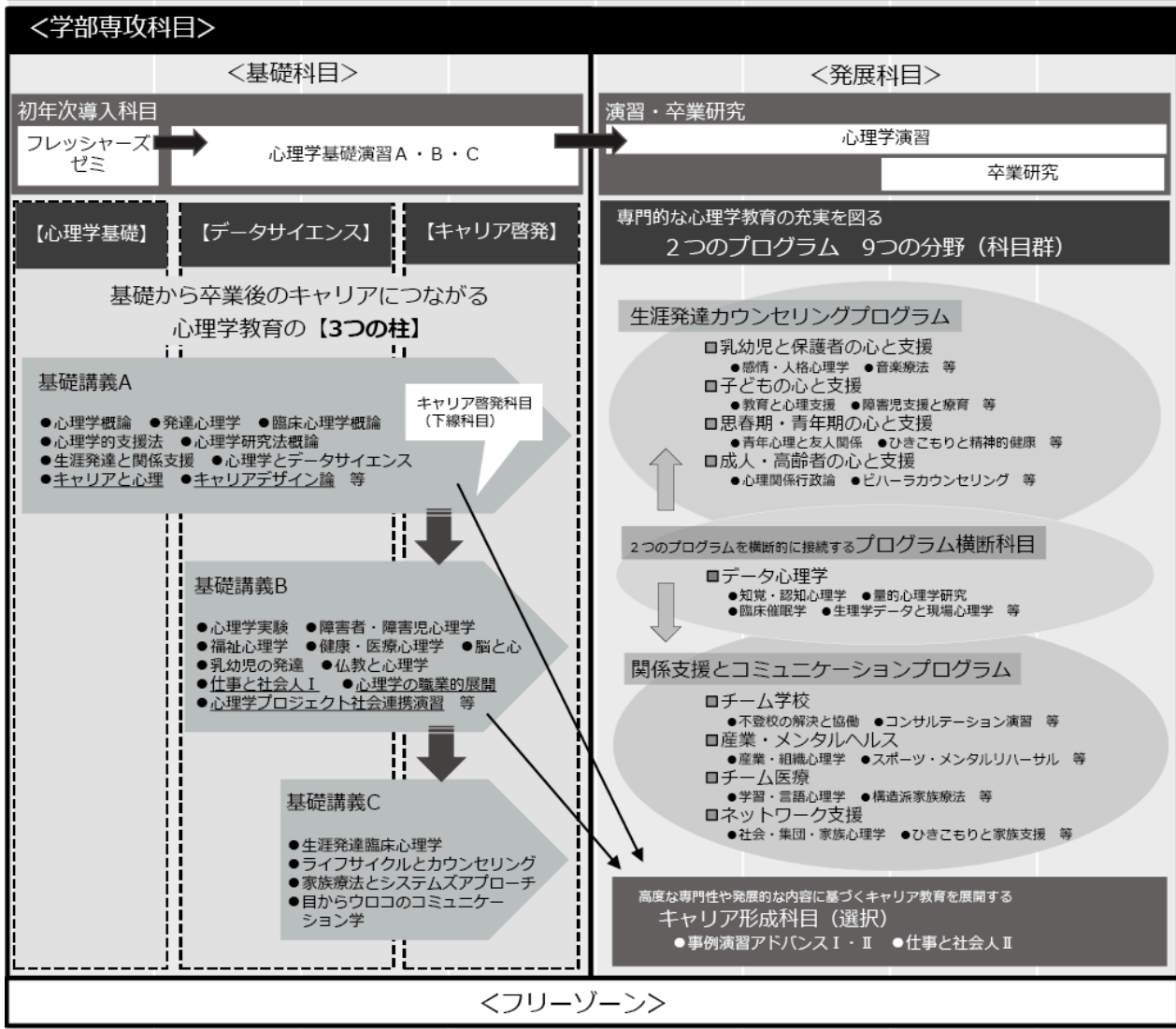
高年次における専門発展科目

「専門発展科目」では、次の2つのプログラムに加えてプログラム横断科目を配置し、心理学の専門的な教育の充実を図ります。

プログラム		9つの分野
生涯発達カウンセリングプログラム	生涯発達の観点から発達段階に応じた「個人の心」に寄り添い、自らが「気づく」支援のあり方にアプローチするプログラム。	①乳幼児と保護者の心と支援 ②子どもの心と支援 ③思春期・青年期の心と支援 ④成人・高齢者の心と支援
関係支援とコミュニケーションプログラム	家族関係、知人・交友関係、組織での人間関係などを理解するために「多様なコミュニケーションの解釈」を学び、社会で共に生きる人間の繋がりにアプローチするプログラム。	⑤チーム医療 ⑥チーム学校 ⑦ネットワーク支援 ⑧産業・メンタルヘルス
プログラム横断科目	2つのプログラムを横断的に接続するプログラム。心理学を科学的なものとして理解し、心の動きや行動をデータとして処理・分析する方法を学び、セルフチェックやメンタルトレーニング等に活用されている最新の対応技術を学ぶプログラム。	⑨データ心理学

4年間の学修プログラム

1年生		2年生		3年生		4年生	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
<教養教育科目>							
仏教の思想科目 (仏教の思想A・仏教の思想B)							
必修外国語科目 英語・初修外国語 (ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語)							
選択外国語科目 (英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・ロシア語・ポルトガル語・ラテン語・ギリシア語・ペルシア語・トルコ語・アラビア語)							
人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・スポーツ科学系科目							



公認心理師受験資格課程科目 ●公認心理師の職責 ●心理演習 ●心理実習A・B							
---	--	--	--	--	--	--	--

諸課程 (教職課程、本願寺派教師資格課程)、大学コンソーシアム京都、留学制度、RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム

心理学部専攻科目の教育目的および履修方法

心理学部では、心理学の専門的な学びの基礎（大学での学びの基礎となる初年次教育を含む）を身につけることを目的とする専門基礎科目として、1年次・2年次（第1 Semesterから第4 Semester）に演習科目及び講義科目を配置しています。3年次・4年次では、低年次での専門基礎科目及び教養教育科目における学びを通じて社会実践の方向性のある程度意識した上で、2つのプログラム（+プログラム横断科目）及び9つの分野を主体的に選択して履修することで、分野に応じたより専門的な学修を進め、卒業後のキャリアへと繋げていけるよう、教育課程を編成しています。

【1】学修課程上の区分

区分	科目区分の特徴及び科目
演習科目	<ul style="list-style-type: none"> 「フレッシュャーズゼミ」を第1 Semesterに配置し、アカデミックスキルの修得と学修活動を中心とした大学生活への順応、及び学修意欲の喚起などを目的としています。 「心理学基礎演習A、B、C」を第2 Semesterから第4 Semesterに配置し、第5 Semester以降に開講する「心理学演習」等の専門発展科目における学修の基盤となる「心理学の学びの基礎」の修得を目指します。 「心理学演習」を第5 Semesterから第8 Semesterに、「卒業研究」を第7 Semester・第8 Semesterにそれぞれ配置し、学生自身が関心に応じて演習を選択し、各分野に関連した研究課題を設定した上で、その課題の本質を理解した上で解決に取り組むことを目指します。
基礎講義A	<ul style="list-style-type: none"> 3つの柱（心理学基礎、データサイエンス、キャリア啓発）に関する必修科目によって構成し、第1 Semesterから第4 Semesterに配置します。 心理学基礎科目としては、初学者向けの概説科目である「発達心理学」「臨床心理学概論」などを開設し、その上で実践的な心理学に不可欠な「心理学的支援法」「心理学研究法概論」「心理学統計法概論」を開講します。 データサイエンス科目として、「心理学とデータサイエンス」などを開講します。 キャリア啓発科目として、「キャリアと心理」「キャリアデザイン論」を開講します。 心理学基礎科目のなかで開講する「生涯発達と関係支援」は、第3 Semester以降に順次専門性を高めて学修していくことになる2つのプログラム及び9つの分野のそれぞれの特徴を学ぶ科目として位置づけます。
基礎講義B	<ul style="list-style-type: none"> 3つの柱に関する選択科目によって構成し、第2 Semesterから第4 Semesterに配置します。 心理学基礎科目としては、2つのプログラム（+プログラム横断科目）の基礎となる科目を開講します（生涯発達カウンセリングプログラム関連：7科目、関係支援とコミュニケーションプログラム関連：6科目、プログラム横断科目関連：2科目）。 データサイエンス科目を2科目、キャリア啓発科目を3科目開講します。
基礎講義C	<ul style="list-style-type: none"> 3つの柱のうちの心理学基礎科目のみで構成し、第3 Semester・第4 Semesterに配置し、2つのプログラムに関する基礎的な科目を開講します。 「生涯発達カウンセリングプログラム」に関連する科目としては、「生涯発達臨床心理学」と「ライフサイクルとカウンセリング」を、「関係支援とコミュニケーションプログラム」に関連する科目としては、「家族療法とシステムズアプローチ」と「目からウロコのコミュニケーション学」をそれぞれ開講します。 全科目を選択必修とすることで、第5 Semester以降、学生が自らプログラムや分野を選択して専門的な学びを深めていく上で重要となる点を総括的に学修する機会とします。
プログラム科目	<ul style="list-style-type: none"> 演習科目において研究課題の解決に取り組む上で必要となる、専門的な学びの深化を図るため、「プログラム科目」を配置し、9つの分野ごとの科目群及びキャリア形成科目を開講します。

- 分野ごとの科目群は、各分野の専門性を深めるために講義系の科目を幅広く開講するとともに、実践的な知識や手法の修得のために演習・実習系の科目も開講します。
- キャリア形成科目として、「仕事と社会人Ⅱ」（第5セメスター）、「事例演習アドバンスⅠ」（第7セメスター）及び「事例演習アドバンスⅡ」（第8セメスター）を開講します。
- 「仕事と社会人Ⅱ」では、「仕事と社会人Ⅰ」（専門基礎科目）において学んだビジネスにおけるコミュニケーションやロジカルシンキング等を発展的に学修します。
- 大学院進学（心理専門職）を想定した「事例演習アドバンスⅠ」及び「事例演習アドバンスⅡ」では、大学院生への実習指導である「心理相談のスーパーバイズ」に陪席し、カウンセリングについて実践的に学修します。

【2】履修方法

教養教育科目から36単位以上【「仏教の思想A・B」科目4単位、人文科学系科目2単位、社会科学系科目2単位、自然科学系科目2単位、言語科目12単位、選択科目14単位】、心理学部専攻科目から70単位以上【必修42単位、選択必修4単位、選択24単位】、フリーゾーン18単位を修得し、合計124単位以上修得することとします。

教養教育科目①							心理学部専攻科目②						フリー③		① + ② + ③	
必修	人文科学系科目	社会科学系科目	自然科学系科目	選択科目	言語科目			必修	選択必修	選択			学部フリーゾーン	オールフリーゾーン		
					英語	初修外国語	発展科目			演習科目	基礎講義A	演習・卒業研究				基礎講義C
仏教の思想A B	2単位以上	2単位以上	2単位以上	14単位	6単位	6単位		8単位	22単位	12単位	4単位					
4単位	6単位以上		14単位以上	12単位以上			46単位				24単位以上			10単位	8単位	合計 124単位

→ :卒業要件単位を超えて修得した単位の流れを示しています。

※「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている科目の中から各1科目以上（2単位以上）修得してください。各分野において2単位を超えて修得した単位は、教養教育科目の選択科目として認定されます。

※学部フリーゾーンでは、「心理学部専攻科目②」の卒業要件単位数を超えて修得した単位を認定します。

※オールフリーゾーンでは、「教養教育科目①の単位」また「学部フリーゾーンの単位」の卒業要件単位数を超えて修得した単位を認定します。

【3】開設科目一覧

(1) 心理学部専攻科目一覧<配当セメスター順>

セメスター	区分	分類	■：必修 ◆：選必	科目名	単位	グレイド	9つの分野									備考
							ネットワーク	チーム医療	チーム学校	データ心理学	思春期・青年期	子ども	成人・高齢者	乳幼児		
1	初年次科目		■	フレッシュャーズゼミ	2	100										
1	基礎講義A	データサイエンス	■	心理学概論	2	100										
1	基礎講義A	心理学基礎	■	発達心理学	2	100										
1	基礎講義A	心理学基礎	■	臨床心理学概論	2	100										
1	基礎講義A	キャリア啓発	■	キャリアと心理	2	100										
2	導入科目		■	心理学基礎演習A	2	200										
2	基礎講義A	心理学基礎	■	心理学的支援法	2	200										
2	基礎講義A	心理学基礎	■	生涯発達と関係支援	2	200										
2	基礎講義A	キャリア啓発	■	キャリアデザイン論	2	200										
2	基礎講義B	心理学基礎	■	人体の構造と機能及び疾病	2	200										
2	基礎講義B	心理学基礎	■	健康・医療心理学	2	200										
3	導入科目		■	心理学基礎演習B	2	300										
3	基礎講義A	データサイエンス	■	心理学研究法概論	2	300										
3	基礎講義A	データサイエンス	■	心理学統計法概論	2	300										
3	基礎講義A	データサイエンス	■	心理学とデータサイエンス	2	300										
3	基礎講義B	心理学基礎	■	障害者・障害児心理学	2	300										
3	基礎講義B	心理学基礎	■	教育・学校心理学	2	300										
3	基礎講義B	心理学基礎	■	乳幼児の発達	2	300										
3	基礎講義B	心理学基礎	■	児童思春期精神医学	2	300										
3	基礎講義B	心理学基礎	■	コミュニティとシステム支援	2	300										
3	基礎講義B	心理学基礎	■	ストレスマネジメント	2	300										
3	基礎講義B	キャリア啓発	■	心理学の職業的展開	2	300										
3	基礎講義C	心理学基礎	◆	生涯発達臨床心理学	2	300										※選択必修科目
3	基礎講義C	心理学基礎	◆	家族療法とシステムズアプローチ	2	300										※選択必修科目
4	導入科目		■	心理学基礎演習C	2	300										
4	基礎講義A	心理学基礎	■	心理的アセスメントⅠ	2	300										
4	基礎講義B	データサイエンス	■	心理学実験	1	300										
4	基礎講義B	データサイエンス	■	神経・生理心理学	2	300										
4	基礎講義B	心理学基礎	■	福祉心理学	2	300										
4	基礎講義B	心理学基礎	■	脳と心	2	300										
4	基礎講義B	心理学基礎	■	子どもの心理療法	2	300										
4	基礎講義B	心理学基礎	■	高齢者の心理と福祉	2	300										
4	基礎講義B	心理学基礎	■	仏教と心理学	2	300										
4	基礎講義B	心理学基礎	■	チーム医療	2	300										
4	基礎講義B	心理学基礎	■	チーム学校とシステム論	2	300										
4	基礎講義B	キャリア啓発	■	仕事と社会人Ⅰ	2	300										
4	基礎講義B	キャリア啓発	■	心理学プロジェクト社会連携演習	2	300										
4	基礎講義C	心理学基礎	◆	ライフサイクルとカウンセリング	2	300										※選択必修科目
4	基礎講義C	心理学基礎	◆	目からクロコのコミュニケーション学	2	300										※選択必修科目
5	演習科目		■	心理学演習	2	400										
5	プログラム科目	プログラム横断科目		知覚・認知心理学	2	400				○						
5	プログラム科目	生涯発達		精神疾患とその治療	2	400					○					
5	プログラム科目	生涯発達		感情・人格心理学	2	400								○		
5	プログラム科目	生涯発達		心理関係行政論	2	400								○		
5	プログラム科目	関係支援		司法・犯罪心理学	2	400	○									
5	プログラム科目	関係支援		産業・組織心理学	2	400			○							
5	プログラム科目	プログラム横断科目		量的心理学研究	2	400				○						
5	プログラム科目	プログラム横断科目		質的心理学研究	2	400				○						
5	プログラム科目	プログラム横断科目		生理学データと現場心理学（基礎）	2	400				○						
5	プログラム科目	プログラム横断科目		臨床催眠学	2	400				○						
5	プログラム科目	生涯発達		子育てとソーシャルサポート	2	400									○	
5	プログラム科目	生涯発達		音楽療法	2	400									○	
5	プログラム科目	生涯発達		ダンスセラピー	2	400								○		
5	プログラム科目	生涯発達		乳幼児の理解と支援実習	2	400									○	
5	プログラム科目	生涯発達		教育と心理支援	2	400								○		
5	プログラム科目	生涯発達		発達障害のアセスメント	2	400								○		
5	プログラム科目	生涯発達		心理的アセスメントⅡ	2	400								○		

セメスター	区分	分類	■：必修 ◆：選必	科目名	単位	グレイド	9つの分野									備考		
							ネットワーク	チーム医療 （メンタルヘルス）	チーム学校 （メンタルヘルス）	デジタル心理学	思春期・青年期	子ども	成人・高齢者	乳幼児				
5	プログラム科目	生涯発達		不登校・いじめとスクールカウンセリング	2	400												
5	プログラム科目	生涯発達		青年心理と友人関係	2	400												
5	プログラム科目	生涯発達		思春期とジェンダー心理学	2	400												
5	プログラム科目	生涯発達		大人の発達障害	2	400												
5	プログラム科目	生涯発達		思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ	2	400												
5	プログラム科目	生涯発達		中年期の危機とうつ	2	400												
5	プログラム科目	関係支援		医療におけるシステムズアプローチ	2	400		○										
5	プログラム科目	関係支援		緩和ケアとこころの治癒力	2	400		○										
5	プログラム科目	関係支援		家族療法とコミュニケーション・アプローチ	2	400		○										
5	プログラム科目	関係支援		学校システムにおける精神疾患と家族	2	400				○								
5	プログラム科目	関係支援		不登校の解決と協働	2	400				○								
5	プログラム科目	関係支援		発達障がいと家族	2	400		○										
5	プログラム科目	関係支援		ひきこもりと家族支援	2	400		○										
5	プログラム科目	関係支援		虐待と家族支援	2	400		○										
5	プログラム科目	関係支援		ポジティブ心理学	2	400				○								
5	プログラム科目	関係支援		コーチング心理学	2	400				○								
5	プログラム科目	キャリア形成		仕事と社会人Ⅱ	2	400												
6	演習科目		■	心理学演習	2	400												
6	プログラム科目	関係支援		学習・言語心理学	2	400		○										
6	プログラム科目	関係支援		社会・集団・家族心理学	2	400		○										
6	プログラム科目	プログラム横断科目		生理学データと現場心理学（応用）	2	400					○							
6	プログラム科目	生涯発達		コミュニティ・アプローチ	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		愛着障害と親子関係	2	400												○
6	プログラム科目	生涯発達		保育の心理学	2	400												○
6	プログラム科目	生涯発達		障害児支援と療育	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		学童期の遊びと対人関係	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		発達障害と応用行動分析	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		フォーカシングと体験過程療法	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		ひきこもりと精神的健康	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		認知行動療法	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		エンカウンターグループと回想法	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		ビハラーカウンセリング	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		死生観教育と心理療法	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		認知症の心と家族支援	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		高齢者の理解と支援実習	2	400											○	
6	プログラム科目	生涯発達		人格心理学と精神力動論	2	400											○	
6	プログラム科目	関係支援		コンサルテーション・リエゾン精神医学	2	400		○										
6	プログラム科目	関係支援		構造派家族療法	2	400		○										
6	プログラム科目	関係支援		保護者支援とチーム学校	2	400											○	
6	プログラム科目	関係支援		コンサルテーション演習	2	400											○	
6	プログラム科目	関係支援		特別支援とシステムズアプローチ	2	400											○	
6	プログラム科目	関係支援		ブリーフセラピーとソリューション	2	400											○	
6	プログラム科目	関係支援		非行と家族支援	2	400		○										
6	プログラム科目	関係支援		オープン・ダイアログ演習	2	400		○										
6	プログラム科目	関係支援		キャリアカウンセリング	2	400											○	
6	プログラム科目	関係支援		スポーツ心理学	2	400											○	
6	プログラム科目	関係支援		スポーツ・メンタルリハーサル	2	400											○	
6	プログラム科目	関係支援		マインドフルネス・ヨーガ	2	400											○	
7	演習科目		■	心理学演習	2	500												
7・8	卒業研究	研究演習群	■	卒業研究	4	500												
7	プログラム科目	キャリア形成		事例演習アドバンスⅠ	2	500												
8	演習科目		■	心理学演習	2	500												
8	プログラム科目	キャリア形成		事例演習アドバンスⅡ	2	500												
1	共通選択科目			心理情報処理演習	2	-												
3・4	共通選択科目			社会学概論	4	-												
5・6	共通選択科目			法学概論（国際法を含む）	4	-												
5・6	共通選択科目			政治学原理（国際政治を含む）	4	-												
5・6	共通選択科目			経済学原理（国際経済を含む）	4	-												

※選択必修科目4科目のうち、2科目4単位を履修すること。

（注意）年度により、開講されない科目があります。開設科目一覧に掲載されていても、時間割表に掲載されていない場合は、その年度は不開講です。

また、科目の開講期も変更となる場合もあります。時間割表をよく確認してください。

(2) 学舎別 開講科目一覧

【グレイドナンバー】科目名（単位数）

		大人の発達障害
		思春期の子ども理解と支援実習Ⅰ
		思春期の子ども理解と支援実習Ⅱ
		フォーカシングと体験過程療法
		ひきこもりと精神的健康
		認知行動療法
		人格心理学と精神力動論
	成人・高齢者の心と支援	心理関係行政論
		中年期の危機とうつ
		エンカウンターグループと回想法
		ビハーラカウンセリング
		死生観教育と心理療法
		認知症の心と家族支援
		高齢者の理解と支援実習
関係支援とコミュニケーションプログラム	チーム学校	学校システムにおける精神疾患と家族
		不登校の解決と協働
		保護者支援とチーム学校
		コンサルテーション演習
		特別支援とシステムズアプローチ
		ブリーフセラピーとソリューション
	産業・メンタルヘルス	産業・組織心理学
		ポジティブ心理学
		コーチング心理学
		キャリアカウンセリング
		スポーツ心理学
		スポーツ・メンタルリハーサル
		マインドフルネス・ヨーガ
	チーム医療	医療におけるシステムズアプローチ
		緩和ケアとこころの治癒力
		家族療法とコミュニケーション・アプローチ
		学習・言語心理学
		コンサルテーション・リエゾン精神医学
		構造派家族療法
	ネットワーク支援	司法・犯罪心理学
		発達障がいと家族
		ひきこもりと家族支援

		虐待と家族支援
		社会・集団・家族心理学
		非行と家族支援
		オープン・ダイアログ演習
プログラム横断科目	データ心理学	知覚・認知心理学
		量的心理学研究
		質的心理学研究
		生理学データと現場心理学（基礎）
		臨床催眠学
		生理学データと現場心理学（応用）

【4】キャリア教育

心理学部は、卒業後のキャリアも視野に入れ、初年次に「キャリア啓発科目」、高年次に「キャリア形成科目」を配置し、卒業まで一貫したキャリア教育を展開します。現場で活躍する社会人などを招いた講義等を展開し、実社会での心理学の応用を理解する機会を積極的に提供します。

(1) キャリア啓発科目

科目名	講義等の内容
キャリアと心理	大学での学びを大学卒業後の進路選択や職業選択、長期的な人生設計に役立てられるように、講義やディスカッションを通して考える機会とします。
キャリアデザイン論	将来社会に参加することについて見通しをもつことと自分自身のキャリアデザイン力の涵養を目指します。
心理学の職業的展開	社会の中で心理学がどのように活用されているのか、また心理学にどのような期待が寄せられているのかを学びます。
仕事と社会人Ⅰ	「働く」ということはどういうことなのか、企業等と連携してビジネスにおけるコミュニケーションやビジネスマナー、ロジカルシンキング等について実践的に学びます。特に、企業と顧客におけるコミュニケーションに焦点をあてます。
心理学プロジェクト社会連携演習	地域社会等の諸課題について、心理学的アプローチを活かした協働的能動学習を通じて解決策を実践的に探究します。

(2) キャリア形成科目

科目名	講義等の内容
仕事と社会人Ⅱ	「働く」ということはどういうことなのか、企業等と連携してビジネスにおけるコミュニケーションやビジネスマナー、ロジカルシンキング等について実践的に学びます。特に、職場内で求められるスキルに焦点をあてます。 (公務員や企業等への就職を想定した科目)
事例演習アドバンスⅡ	大学院生の担当しているケースのスーパーヴィジョン（指導）への陪席を通し、カウンセリングについて理解する機会をもちます。 (大学院進学（心理専門職）を想定した科目)

【5】卒業研究

3年次と4年次にて履修する「心理学演習」とセットで4年次に「卒業研究」を必修科目として履修します。この科目は、心理学にかかわる領域において、研究テーマを深め、研究方法の手続きや調査結果の整理の仕方、考察の書き方等を明らかにし、4年間の集大成である卒業研究の作成を目標とします。最終的に「卒業研究」を提出し、卒業研究発表会を実施します。

(1) 「心理学演習」

<第5、第6セメスター>

1年次、2年次の「心理学基礎演習」で学修した内容を踏まえ、4年次で履修する「心理学演習」につながる実践的な学修を行います。

<第7、第8セメスター>

3年次「心理学演習」での学修をさらに深めるとともに、その集大成として卒業研究を制作するために必要な心理学領域への専門性を高めます。

(2) 「卒業研究」について

学士課程における集大成として、論文等の成果物の評価と発表（試問含）によって、単位を認定します。

<スケジュール>

12月中旬：卒業研究に係る「概要」もしくは「抄録」を提出

1月中旬：卒業研究発表会

※提出内容・提出方法等の詳細については、「心理学演習」授業内及びポータルサイトにて周知します。

【6】 国家資格「公認心理師」

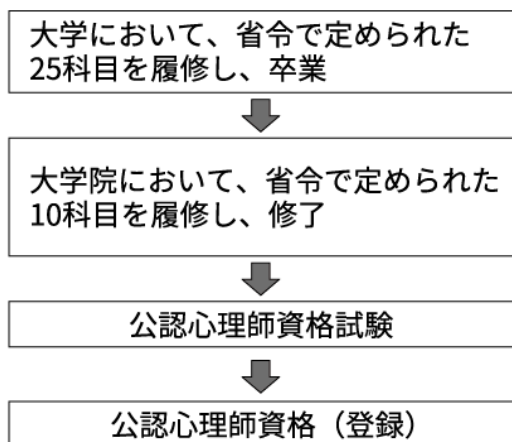
「公認心理師」資格は2017年9月に施行された、心理学の国家資格です。

(1) 「公認心理師」を取得するには

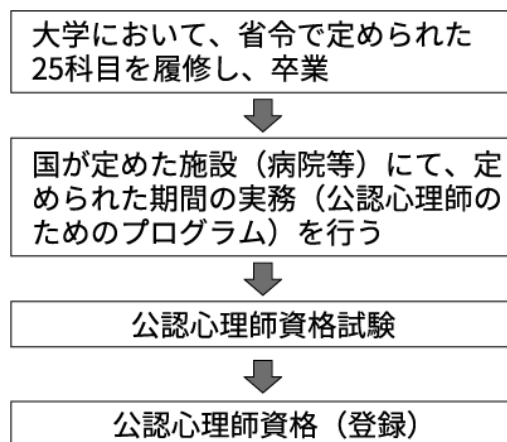
国家資格である「公認心理師」を所得するには、国（省令）が定めた科目を大学ならびに大学院で履修した（単位を取得した）上で、公認心理師資格試験を受験、合格しなければいけません（図1参照）。

ただし、大学卒業後、国が認めた施設（病院等）にて、実務（公認心理師のためのプログラム）を行うことで、公認心理師資格試験を受けることもできます（図2参照）。

【図1 公認心理師取得までのコース】



【図2 実務による公認心理師取得までのコース】



(2) 龍谷大学における公認心理師受験資格取得のための科目

省令に定める科目	心理学部開講科目名	配当年次（セメスター）	単位
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2年次（4セメ）	2

心理学概論	心理学概論	1年次 (1セメ)	2
臨床心理学概論	臨床心理学概論	1年次 (1セメ)	2
心理学研究法	心理学研究法概論	2年次 (3セメ)	2
心理学統計法	心理学統計法概論	2年次 (3セメ)	2
心理学実験	心理学実験	2年次 (4セメ)	1
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	3年次 (5セメ)	2
学習・言語心理学	学習・言語心理学	3年次 (6セメ)	2
感情・人格心理学	感情・人格心理学	3年次 (5セメ)	2
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2年次 (4セメ)	2
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	3年次 (6セメ)	2
発達心理学	発達心理学	1年次 (1セメ)	2
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2年次 (3セメ)	2
心理的アセスメント	心理的アセスメントⅠ	2年次 (4セメ)	2
心理学的支援法	心理学的支援法	1年次 (2セメ)	2
健康・医療心理学	健康・医療心理学	1年次 (2セメ)	2
福祉心理学	福祉心理学	2年次 (4セメ)	2
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2年次 (3セメ)	2
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	3年次 (5セメ)	2
産業・組織心理学	産業・組織心理学	3年次 (5セメ)	2
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	1年次 (2セメ)	2
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	3年次 (5セメ)	2
関係行政論	心理関係行政論	3年次 (5セメ)	2
心理演習	心理演習	3年次 (5セメ)	2
心理実習 (80時間以上)	心理実習A	3年次 (6セメ)	2
	心理実習B	4年次 (7・8セメ)	2

※年度により、開講セメスターが変更となる科目があります。履修登録時に確認してください。

(3) 「心理実習A・B」について

3年次に「心理実習A」、4年次に「心理実習B」が開講されます。

これは、80時間を超える学外での実習です。このカリキュラムは受講人数の制限がかかるため、本カリキュラムを受講するためには、2年次に開講予定の「公認心理師の職責」ならびに3年次開講予定の「心理演習」の単位を取得することが必須条件となります。また、「心理関係行政論」の単位を取得済みであることも望ましいです。その他、履修登録に際し、選考が行われることもありますので注意してください。

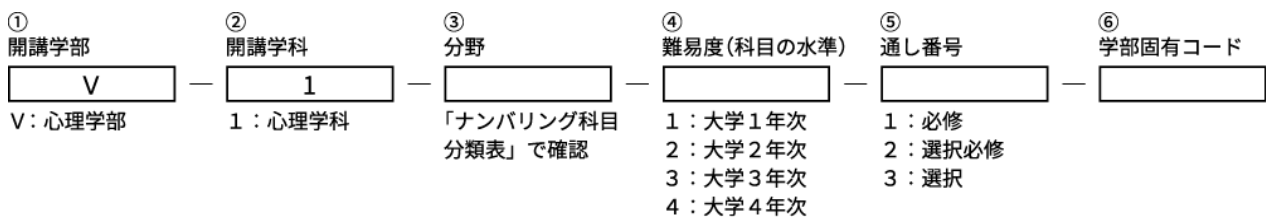
※「心理実習A」と「心理実習B」は、両方修得することが必須です。

※「心理実習A・B」ではガイダンスを行います。ガイダンスの受講は必須です。ガイダンス開催日時はポータルサイト等で周知する予定です。各自で意識して、大学からの情報を収集してください。

【7】科目ナンバリング

心理学部開講科目のナンバリングコードは次のとおりです。

<心理学部におけるナンバリングコード体系>



<ナンバリング科目分離・略語表>

系 (Category)	分野 (Area)	分科 (Discipline)	略号	細目名 (Research Field)
—	—	—	SEM	演習 Seminar
人文社会系 Humanities and Social Sciences	社会科学 Social sciences	心理学 Psychology	SOP	社会心理学 Social psychology
			EDP	教育心理学 Educational psychology
			CLI	臨床心理学 Clinical psychology
			EXP	実験心理学 Experimental psychology

※参考：科学研究費助成事業「系・分野・分科・細目表キーワード一覧」（日本学術振興会）

※「演習」については、龍谷大学心理学部教務課として科目分類（略号）を設定する。

科目名	年次	単位	科目ナンバリング
フレッシューズゼミ	1	2	V-1-SEM-1-1
心理学基礎演習A	1	2	V-1-SEM-1-1
心理学基礎演習B	2	2	V-1-SEM-2-1
心理学基礎演習C	2	2	V-1-SEM-2-1
心理学演習	3	2	V-1-SEM-3-1
心理学演習	4	2	V-1-SEM-4-1
卒業研究	4	4	V-1-SEM-4-1
心理学概論	1	2	V-1-SOP-1-1
発達心理学	1	2	V-1-EDP-1-1
臨床心理学概論	1	2	V-1-CLI-1-1
心理学的支援法	1	2	V-1-CLI-1-1
心理学研究法概論	2	2	V-1-EXP-2-1
心理学統計法概論	2	2	V-1-EXP-2-1
心理的アセスメントⅠ	2	2	V-1-CLI-1-1
生涯発達と関係支援	1	2	V-1-EDP-1-1

心理学とデータサイエンス	2	2	V-1-EXP-2-1
キャリアと心理	1	2	V-1-SOP-1-1
キャリアデザイン論	1	2	V-1-SOP-1-1
人体の構造と機能及び疾病	1	2	V-1-CLI-1-3
心理学実験	2	1	V-1-EXP-2-3
神経・生理心理学	2	2	V-1-EXP-2-3
障害者・障害児心理学	2	2	V-1-EXP-2-3
福祉心理学	2	2	V-1-CLI-2-3
健康・医療心理学	1	2	V-1-CLI-1-3
教育・学校心理学	2	2	V-1-EDP-2-3
脳と心	2	2	V-1-EXP-2-3
乳幼児の発達	2	2	V-1-EDP-2-3
児童思春期精神医学	2	2	V-1-EDP-2-3
子どもの心理療法	2	2	V-1-CLI-2-3
高齢者の心理と福祉	2	2	V-1-CLI-2-3
仏教と心理学	2	2	V-1-SOP-2-3
コミュニティとシステム支援	2	2	V-1-SOP-2-3
ストレスマネジメント	2	2	V-1-EDP-2-3
チーム医療	2	2	V-1-SOP-2-3
チーム学校とシステム論	2	2	V-1-SOP-2-3
心理学の職業的展開	2	2	V-1-SOP-2-3
仕事と社会人Ⅰ	2	2	V-1-SOP-2-3
心理学プロジェクト社会連携演習	2	2	V-1-SOP-2-3
生涯発達臨床心理学	2	2	V-1-CLI-2-2
ライフサイクルとカウンセリング	2	2	V-1-CLI-2-2
家族療法とシステムズアプローチ	2	2	V-1-CLI-2-2
目からウロコのコミュニケーション学	2	2	V-1-SOP-2-2
知覚・認知心理学	3	2	V-1-EXP-3-3
精神疾患とその治療	3	2	V-1-CLI-3-3
感情・人格心理学	3	2	V-1-EXP-3-3
心理関係行政論	3	2	V-1-SOP-3-3
司法・犯罪心理学	3	2	V-1-CLI-3-3
産業・組織心理学	3	2	V-1-SOP-3-3
学習・言語心理学	3	2	V-1-EXP-3-3
社会・集団・家族心理学	3	2	V-1-SOP-3-3

量的心理学研究	3	2	V-1-EXP-3-3
質的心理学研究	3	2	V-1-EXP-3-3
生理学データと現場心理学（基礎）	3	2	V-1-EXP-3-3
臨床催眠学	3	2	V-1-CLI-3-3
生理学データと現場心理学（応用）	3	2	V-1-EXP-3-3
子育てとソーシャルサポート	3	2	V-1-SOP-3-3
音楽療法	3	2	V-1-CLI-3-3
ダンスセラピー	3	2	V-1-CLI-3-3
乳幼児の理解と支援実習	3	2	V-1-EDP-3-3
教育と心理支援	3	2	V-1-EDP-3-3
発達障害のアセスメント	3	2	V-1-EDP-3-3
心理的アセスメントII	3	2	V-1-CLI-3-3
不登校・いじめとスクールカウンセリング	3	2	V-1-EDP-3-3
青年心理と友人関係	3	2	V-1-EDP-3-3
思春期とジェンダー心理学	3	2	V-1-EDP-3-3
大人の発達障害	3	2	V-1-EDP-3-3
思春期の子どもの理解と支援実習I	3	2	V-1-EDP-3-3
中年期の危機とうつ	3	2	V-1-CLI-3-3
コミュニティ・アプローチ	3	2	V-1-SOP-3-3
愛着障害と親子関係	3	2	V-1-EDP-3-3
保育の心理学	3	2	V-1-EDP-3-3
障害児支援と療育	3	2	V-1-EDP-3-3
学童期の遊びと対人関係	3	2	V-1-EDP-3-3
発達障害と応用行動分析	3	2	V-1-EDP-3-3
思春期の子どもの理解と支援実習II	3	2	V-1-EDP-3-3
フォーカシングと体験過程療法	3	2	V-1-CLI-3-3
ひきこもりと精神的健康	3	2	V-1-SOP-3-3
認知行動療法	3	2	V-1-EXP-3-3
エンカウンターグループと回想法	3	2	V-1-CLI-3-3
ビハラーカウンセリング	3	2	V-1-CLI-3-3
死生観教育と心理療法	3	2	V-1-EDP-3-3
認知症の心と家族支援	3	2	V-1-CLI-3-3
高齢者の理解と支援実習	3	2	V-1-CLI-3-3
人格心理学と精神力動論	3	2	V-1-EDP-3-3

医療におけるシステムズアプローチ	3	2	V-1-SOP-3-3
緩和ケアとこころの治癒力	3	2	V-1-CLI-3-3
家族療法とコミュニケーション・アプローチ	3	2	V-1-CLI-3-3
学校システムにおける精神疾患と家族	3	2	V-1-EDP-3-3
不登校の解決と協働	3	2	V-1-EDP-3-3
発達障がいと家族	3	2	V-1-EDP-3-3
ひきこもりと家族支援	3	2	V-1-SOP-3-3
虐待と家族支援	3	2	V-1-SOP-3-3
ポジティブ心理学	3	2	V-1-CLI-3-3
コーチング心理学	3	2	V-1-SOP-3-3
コンサルテーション・リエゾン精神医学	3	2	V-1-CLI-3-3
構造派家族療法	3	2	V-1-CLI-3-3
保護者支援とチーム学校	3	2	V-1-EDP-3-3
コンサルテーション演習	3	2	V-1-CLI-3-3
特別支援とシステムズアプローチ	3	2	V-1-EDP-3-3
ブリーフセラピーとソリューション	3	2	V-1-CLI-3-3
非行と家族支援	3	2	V-1-CLI-3-3
オープン・ダイアログ演習	3	2	V-1-SOP-3-3
キャリアカウンセリング	3	2	V-1-SOP-3-3
スポーツ心理学	3	2	V-1-SOP-3-3
スポーツ・メンタルリハーサル	3	2	V-1-EXP-3-3
マインドフルネス・ヨガ	3	2	V-1-EXP-3-3
事例演習アドバンスⅠ	4	2	V-1-CLI-4-3
事例演習アドバンスⅡ	4	2	V-1-CLI-4-3
仕事と社会人Ⅱ	3	2	V-1-SOP-3-3

ルーブリック

ルーブリック

(1) 「ルーブリック」とは

ルーブリックとは評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」により構成されたものです。ルーブリックを活用することにより、学修の目標が明確にされます。また、先生と学生の皆さんの双方が現時点の達成水準を客観的に把握することができます（中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』2012年8月28日参照）。

アカデミック・リテラシー・ルーブリックは心理学部の皆さんが卒業の時までに備えてほしい基礎的な能力です。また、卒業研究ルーブリックは心理学部の4年間の学修の集大成である卒業研究の自分の達成水準を知るために使うものです。いずれも右の列に行くほど達成水準が高くなっていきます。これらのルーブリックを活用することで、学生の皆さんが卒業時までに習得していかなければならない能力を事前に知るとともに、今自分がどの位置にいるのかを知ることができます。

なお、ここで示したルーブリックはあくまでも一例です。これによる評価が皆さんの単位認定に関わる評価にそのまま結びつくとは限りません。

(2) 心理学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック

※1 このアカデミック・スキル・ルーブリックは学生の皆さんが、龍谷大学の心理学部生として求められるスキルを、どの程度達成できているかを確認するためのものです。

※2 おりにふれて、このルーブリックで自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りないものを確認し、各自の学修を深めるツールとして利用してください。

		相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
①：建学の精神の具現化	建学の精神の意義について理解している。	大学の主催する宗教行事などにまったく参加しておらず、建学の精神も理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにあまり参加しておらず、建学の精神をあまり理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにある程度参加し、建学の精神を理解しようと努めている。	大学の主催する宗教行事などに積極的に参加し、建学の精神を体現・実行できている。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	人間社会において「言語(ことば)」の持つ影響力について深く理解し、人文学の幅広い知識を身につけている。	「言語(ことば)」の持つ力をまったく理解できていないため、テキストの読解ができず、人文学の幅広い知識の修得もできていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が必ずしも理解できていないため、テキストを正確に読解ができず、人文学の幅広い知識の修得も不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が一定程度理解できているため、一定程度テキストの読解ができ、幅広い人文学を学んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が深く理解できているため、テキストの正確な読解ができ、人文学の幅広い知識が身につけている。
	日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝達するための方法を身につけている。	正確な日本語能力がなく、自らの意見を伝えることができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、日本語能力を持ち、自らの意見をなんとか伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見を伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見を分かりやすく伝えることができる。
	外国語運用能力や豊かな教養を身につけている。	外国語運用能力をはじめとした教養の学修にまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修に必ずしも積極的に取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修にある程度積極的に取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修に積極的に取り組んでいる。
	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができる。	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができない。	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することが十分でない。	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することができる。	行動に対する心理的影響を読み解くために必要な専門的知識を理解し、説明することが十分できる。
	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけている。	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルも身につけていない。	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルも十分に身につけていない。	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを身につけている。	他者との相互理解や良好な関係構築を可能とするコミュニケーション・スキルを十分に身につけている。
	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や幅広い教養を身につけている。	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や教養をまったく身につけていない。	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や教養を身につけることが十分にできていない。	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や教養をある程度身につけることができている。	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎や教養を十分に身につけることができている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。	他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけている。
	自らが設定した課題について、探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を多角的に身につけている。	課題の探求から解決にむけた能力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が十分身につけている。

		相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
	論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。	現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、判断できない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、判断することが不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、ある程度判断できる。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、十分判断できる能力がある。
	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけている。	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力をまったく身につけていない。	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけることが十分にできていない。	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を身につけている。	社会のさまざまな環境や状況によって発生する人間関係の課題に対して、心理学の知識を活用して具体的な解決を図るための基本的能力を十分に身につけている。
	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができる。	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができない。	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することが十分できない。	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができる。	社会活動を俯瞰的に捉えながら、心理学の知識に立脚して最適なコミュニケーションの手法を選択することができる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	多様な価値観を認め、言語（ことば）の学修をはじめとした学びを通じて自己の認識を広げ、異なる価値観を受容することができる。	多様な価値観に対する理解がなく、共生の理念に対する理解がない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念が明確に理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解を持ち、共生の理念を体現できている。
	他者との交流や異なる価値の受容を通じて、自己を客観視し、他者と協働することができる。	他者との交流や協働することができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値の受容や自己を客観視することが不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値の受容や自己を客観視することがある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値の受容や自己を客観視することが十分身につけている。
	社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が必ずしも身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な就業力がある程度身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が身につけている。
	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができる。	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができない。	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることが不十分である。	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を受け入れることができる。	他者との協働実践によって、自己を客観視し、多様な価値観を大きく受け入れることができる。
	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができる。	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができない。	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することが不十分である。	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に尽力することができる。	心理学の基礎知識や、対人支援力等のコミュニケーション・スキルを活用して、他者と協働して人間社会の諸課題の解決に積極的に尽力することができる。
	よりよい社会づくりのために主体的に活躍すべく、適切な職業観・勤労観と持続的な生涯就業力を身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な生涯就業力が身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な生涯就業力が必ずしも身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な生涯就業力がある程度身につけている。	確固とした職業観や勤労観、持続可能で柔軟な就業力が身につけている。

(3) 卒業研究ルーブリック

※卒業研究にかかわる学修進度の目安です。あくまでも一例とし、詳細は、教員の指導に従ってください。

		1	2	3	4	5
先行研究		国内の先行研究を把握できていない。	国内の先行研究を把握しているが、整理して説明できない。	国内の先行研究を把握し、整理して説明できる。	国外の先行研究も把握しているが、整理して説明することができない。	国内外の先行研究を把握し、整理して説明できる。
問題	設定	問題の設定が曖昧である。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題であるとはいえない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	適切で明確な問題を設定しているが、独創性はない。	適切で明確な問題を設定しており、独創性がある。
	仮説	仮説の構成が不適切である。仮説が提示されていない。	仮説の構成がやや不適切である。定時が曖昧である。	仮説がある程度適切に構成され、提示されている。	仮説が概ね適切に構成され、提示されている。	仮説が適切に構成され、明確に提示されている。
	論述	全く客観的・論理的ではない論が進められている。	やや客観的・論理的ではない論が進められている。	ある程度、客観的・論理的に論が進められている。	概ね客観的・論理的に論が進められている。	客観的・論理的に論が進められている。
資料	選択	適切ではない資料を使用しているか、資料を使用していない。	適切な単一の資料(翻訳)を使用している。	適切な単一の資料(原語)を使用している。	適切な複数の資料(翻訳)を使用している。	適切な複数の資料(原語)を使用している。
	読解	ほぼ全体を通して、資料を正しく読解できていない。	資料が正確に読解できている部分とできていない部分が半々である。	7割方読解できている。	若干の問題はあるが、ほぼ正確に資料を読解できている。	資料を正確に読解できている。
	分析	資料が適切に分析できていない。	概ね適切に分析できているが、説明が不十分である。	概ね適切に分析し、それを説明することができている。	資料を適切に分析できているが、説明が不十分である。	資料を正確に分析し、それを十分に説明できている。
考察	データ	研究方法に照らし、不適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータがかなり提示されている。	研究方法に照らし、不適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータが一部提示されている。	研究方法に照らし、ある程度適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータが提示されている。	研究方法に照らし、概ね適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータが提示されている。	研究方法に照らし、適切な統計的手法で加工、集約、検定されたデータが提示されている。
	結果	資料の分析に基づいておらず、論理的整合性にも欠ける。	概ね資料の分析に基づいているが、論理的整合性に欠ける。	概ね資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、論理的整合性をもった考察を加えている。
表現	文章化	伝達したい内容を的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、あまり的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、7割方は的確に文章化できている。	伝達したい内容をほぼ的確に文章化できている。	伝達した内容を全体的に的確に文章化できている。
	誤字・脱字	誤字・脱字が非常に多い。	誤字・脱字がやや目立つ。	誤字・脱字が3、4箇所ある。	若干(1、2箇所)の誤字・脱字がある。	誤字・脱字が全くない。
基本的技術	典拠・典拠箇所の明示	典拠・典拠箇所が殆ど明示されていない。	典拠は示されているが、典拠箇所が明示されていない。	典拠・典拠箇所の明示が欠けている部分がある。	典拠・典拠箇所がほぼ明示されている。	典拠・典拠箇所が全て明示されている。
	参考文献表の作成	参考文献がリスト化されていない。	参考文献表に欠落・余分があり、書式も適切ではない。	適切な書式ではあるが、参考文献表に欠落・余分がある。	参考文献表に欠落・余分はないが、書式が適切ではない。	適切な書式で、欠落・余分なく参考文献表が作成されている。
	論文の書式	指定の書式に全く従っていない。	指定の書式にあまり従っていない。	指定の書式に7割方従っている。	指定の書式にほぼ従っている。	指定の書式に全て従っている。